



現場の知恵を生かした 先進技術の活用をめざして

大和ハウスライフサポート株式会社は、大和ハウス工業株式会社の子会社として介護付有料老人ホームを4カ所、自立型と介護付きを併設した有料老人ホームを2カ所と、合わせて6カ所を運営しています。

私が高齢者住宅事業に携わるようになって3年が過ぎようとしています。着任後、初めて訪れたホームで、スタッフがご入居者をかいがいしく介護する光景に、田舎で暮らす両親を思い起こさずにはいられません。ご入居者はほぼ私の親と同世代で、戦時期に幼年期・思春期を過ごされ、今日のわが国の繁栄を築く中心的な役割を担われた世代です。

幸い私の両親は、現在も介護を必要とはせず暮らしていますが、日々できることが減っていくことに對し、「情けない」とこぼしています。

私はそのたびに、両親がまだ若く元気だった頃を思い出して寂しさを感じています。と同時に、ホームのご入居者やご家族も同じ寂しさを感じていらっしゃるんだろうな、と強く思います。

「何をやったら儲かるかではなく、多くの人の役に立ち、喜んでもらえるような事業や商品を考えて」。これは、大和ハウス工業株式会社の創業者がつねに唱えていた言葉で、大和ハウスグループのDNAとして、今も、そしてこれからも受け継がれていく精神です。そして、この原点にあるのが現場主義です。知恵はすべて現場にあり、現場に根ざした知恵を大切にすることが、多くの人の役に立ち喜んでいただける事業や商品となることを、私も徹底的に教え込まれました。

当社では昨年12月、渋谷区に新設した介護付有料老人ホームに、初めての試みとして数種のロボット介護機器を導入しました。スタッフの負荷の軽減やご入居者の自立支援に資するものとして、大いに期待していますが、導入の目的はそれだけではありません。実際に使ってみることで、操作性、精度、活用方法など、さまざまな改善の方向性を見出すことも、極めて重要だと考えています。

超高齢社会が加速度的に進行するわが国では、介護人材の確保は深刻な課題です。介護を天職として、ご入居者やご家族のために一生懸命、身を粉にして業務に励む人も多数いますが、介護に対する社会的なイメージや処遇、過重な身体的・精神的負荷など、改善しなければならない問題は山積しています。そのため、高い志をもって介護の世界に入っても、志半ばで離職せざるを得ない人も多くいます。

ロボット介護機器がすべての課題を解決するわけではありませんが、今後の高齢者住宅事業では、多くの課題を解決する糸口になると考えています。介護を受ける方の立場に立ち、ロボット操作に習熟して現場で使いこなすことが、新たなロボット開発の着眼となり、改善を促すことにもなります。またそれは、介護する人、受ける人にとっての負荷の軽減や自立支援、ひいては多くの課題解決につながるでしょう。

もちろん、ロボットは人が扱うものであって、あくまでも介護の現場は人が主役です。スタッフの真心のこもった一挙手一投足がご入居者やご家族に安心感をもたらし、ご入居者およびご家族との良好な関係が、スタッフのモチベーションを向上させることに変わりはありません。現場の知恵を生かした先進技術の活用で、多くの人の役に立つ。そして、ご入居者やスタッフは満面の笑みを浮かべている。近い将来、このようなホームが当たり前となるよう、微力ながらがんばりたいと思っています。

高山 隆夫

たかやま・たかお

● PROFILE

大和ハウスライフサポート株式会社
代表取締役。大和ハウス工業株式会社
を経て、平成25年4月取締役就任、
平成26年4月より現職。

